

春の組織拡大月間を成功させよう

2/21 東京地評出陣式を開催



経験と決意を語る東京医労連の参加者 (2/21 ラパスホール)

東京地評「春の組織拡大月間」は、3月～5月。3月は、拡大計画の策定や、行動の意思統一、決起集会などのスタート準備をし、4月から本格始動です。目標は、組織現勢（18年6月調査）の5%増。東京地評は、全組合員参加で、月間に取り組みと呼びかけ、2月21日（木）17時からラパスホールで「組織拡大出陣式」を行いました。

春の組織拡大月間出陣式 会挨拶し、「組織拡大に向は、はじめに荻原議長が開けた意思統一をすることが

大切。目標を決め、誰に当を紹介した『土建タイムス』たるか具体化しながら、仲間を増やしに奮闘しよう」と呼びかけました。続いて、3つの団体が決意表明。東京自治労連田原副委員長は、「本気で組織拡大。全支部を訪問し、現状を話し合い、要求実現と一緒に拡大を訴えている。自治労連共済や労金の活用も一つの武器に」。全労連・全国一般東京龍前書記長は、「相談体制を強化しつつ、職場の組織図を見ながら組織化。職場内の格差是正をキーワードに均等待遇実現などで組織化する。『請負の生活を守りたい』と組合を作ったたかっている」。東京土建松丸委員長は「年1%の実増を目指して取り組んでいる。『春一番』の組織拡大が終わり、4～5月の月間に入る。訪問と対話を重視。土建の取り組み51人でした。

大切。目標を決め、誰に当を紹介した『土建タイムス』たるか具体化しながら、仲間を増やしに奮闘しよう」と呼びかけました。続いて、3つの団体が決意表明。東京自治労連田原副委員長は、「本気で組織拡大。全支部を訪問し、現状を話し合い、要求実現と一緒に拡大を訴えている。自治労連共済や労金の活用も一つの武器に」。全労連・全国一般東京龍前書記長は、「相談体制を強化しつつ、職場の組織図を見ながら組織化。職場内の格差是正をキーワードに均等待遇実現などで組織化する。『請負の生活を守りたい』と組合を作ったたかっている」。東京土建松丸委員長は「年1%の実増を目指して取り組んでいる。『春一番』の組織拡大が終わり、4～5月の月間に入る。訪問と対話を重視。土建の取り組み51人でした。



沖縄県庁前でスタンディング行動 (2/16)

辺野古新基地建設反対

沖縄県民投票で勝利

支援参加者「東京で運動を続ける」

2月24日投票。東京地評は、2月の2度に行われた全労連などにも支援行動に参加しました。参加者の一人、東京医労連青年部役員荒木崇雄さんの手記を紹介します。

投票は、72%の「反対」が圧倒的

2月24日投票。東京地評は、2月の2度に行われた全労連などにも支援行動に参加しました。参加者の一人、東京医労連青年部役員荒木崇雄さんの手記を紹介します。

投票は、72%の「反対」が圧倒的



講演する鷲見賢一郎弁護士 (右から2人目) 2/16 東京地評会議室

東京地評「労働相談・オルグ学習交流会」

講演と事例検討

東京地評は、2月16日 交流会を開催。鷲見賢一郎(日)午後、東京労働会館 弁護士が、「働き方改革で労働者の権利はどうなる？」

「改正された8本の法律について、鷲見氏は、少し活用出来るところはありますが、大半が役に立たないもの。特に、「残業代ゼロ・過労死激増」の高度プロフェッショナル制度は、職場に導入させず、廃止を求めると。時間外・休日労働の上限規制については、過労死ライン容認」規制ではあるが、労働条件改善の機会として捉え、36協定締結を取り組むことが重要だと力説しました。交流では、派遣やシフト労働者の有給休暇取得、労働条件の引き下げ事例等を検討しました。

東京地評女性センター 春闘泊り込み単産・地域学習交流会



講演する浦野広明税理士 (2/23 秩父・梁山泊)

職場実態や組織強化を交流

2月23(土)、24(日)、秩父で、「女性センター19春闘泊り込み単産・地域学習交流会」を開催。9単産4地域より30人が参加し、学び交流しました。

学習会は、「消費税と社会保障」と題して、浦野広明税理士が講演。「単なる税率アップ反対運動ではなく、納税者としての国民の権利意識を強める運動に」と、憲法に照らして、税金の在り方を学びました。

その後、19春闘方針を提案し、全体会では、「介護ヘルパーの労働組合結成(新宿介護ユニオン)」、「1年単位の变形労働制(都教組)」、「会計年度任用制度(東京自治労連)」、「看護師・介護職員の労働実態(東京医労連)」等について報告がありました。夕食交流会は、単産・地域からの出し物等で、盛り上がりを楽しみました。

2日目は、3つの分散会で、ハラスメント、残業、賃金・賃上げ、有休・生休の取得などの職場実態や、組織強化・拡大について話し合いました。最後に東京地評女性センター連絡会の次期体制を確認しました。



都議会第1回定例会開会日行動

都議会第1回定例会が開会した2月20日、東京地評、都民連、東京社保協の主催で、都庁前に約250人の参加で実施しました。個人請願書は、事前に1061枚集まりました。荻原淳東京地評議長の主催者あいさつと日本共産党の星見てい子都議の連帯あいさつに続き、建設労働者の賃金問題(東京土建)、高齢者の医療費負担、築地中央卸売市場の解体、児童虐待、晴海選手村土地投げ売り問題について、4団体が決意表明を行いました。

三多摩市民アクション署名推進交流会

2月28日、三多摩市民アクションは、立川市女性総合センターアタイムホールで3000万署名の推進交流会を開催し、33人が参加しました。憲法会議の高橋信一事務局長が情勢報告をしたあと、三多摩各地域での署名の経験交流を行いました。主催は三多摩市民アクション。

全国最低賃金一律を求める院内集会

2月28日、全労連・国民春闘共闘は、衆院第2議員会館で、全国一律最低賃金制の実現を求める院内集会を開催しました。全労連・野村幸裕事務局長は、自民党のなかにも全国一律最賃を求める議連ができたことについて、選挙の争点に押し上げ、必ず実現しようと呼びかけました。集会後、衆参両院の厚生労働委員会の議員らに対し、緊急要請行動を行いました。

3月1日、東京地評青年協と東京学習会議の共催の青年連続学習会の第3回を、東京労働会館地下会議室にて開催し、青年組合員など23人が参加しました。首都圏青年ユニオン委員長の原田仁希さんを講師に団交映像の上映と解説をいただいた後、東京法律事務所、青龍美和子弁護士を講師に、団交で使える法律知識を学びました。

全日本金属労働者のつどいを開催

3月2日、JMITUを中心とした金属労組懇談会の主催で、上野公園野外ステージにて、東日本金属労働者のつどいを開催し、1000人以上が参加しました。19春闘を幅広い団体と連帯してたたかいたい、大幅賃上げを勝ち取ろうと訴えました。集会後、デモ行進しました。

東京地評青年協定期大会を開催

3月10日、東京地評青

2月28日、全労連・国民春闘共闘は、衆院第2